

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN





只誠藏

李公西

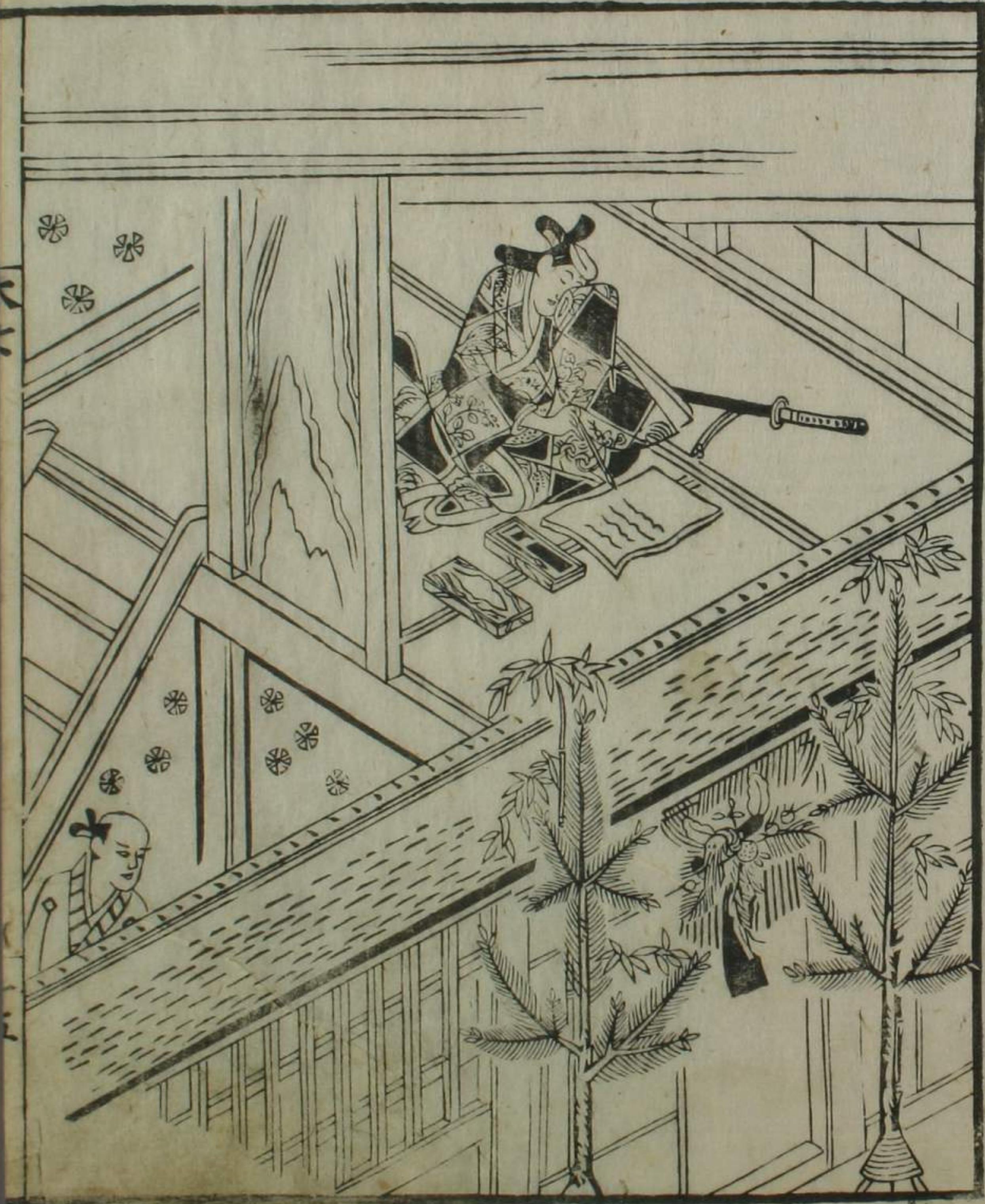
神也通さぬ死見乃夜
猿小猿と毛く青枝出。毛びと樹の小枝かほせ
楊柳とく。芝居あ處乃宣紙とく。うづけ玉一一小。

それこのあづくえも小松のひづひよびりて
人せりくひの晴一 小け段やう一とよにあれて。早
詠うけいあれあづ春古とくの内からりあく。春
氣球あやす一ね。毛絨のあひあれ。がよおもくあは
れあづ。今ハ秋のあねと。あづく。済づまが。勁りみ乃
あひとく。どきとて毛花とく。一家とて自由小猿
めらくす。あひとて死乃かえり。か面新とは
戸前大坂三ヶ津小まれあつて。咲言えんるきへあ
ざり。を圓の入帰よりとく。ゆうれ不思條り。

ねえの番組は付紙未りく。もと居てはうへる
く我圓の承認の様あると。がまくふのを
ヨリ漬ごとせよ又せばヨリ業程ありさうか
し。だに場内あひ擣小人取屋の前六とどろふ。又細
小師子籠の法要の席まとのんびりうの本
鬼を敲りる安神鳴。うれしき童子。又竹
捨へく車中丹波からくる。それより竹のぼ
三布小肩笠とて。あらぬ。え目もと大晦
日まく支ぬれ口色むろりに。さりとてセツく。擣い
てのあへよこれ。ハ帝笠扇のあつて。さわひゆす
き。打度か油乃耗とあげよ。始ふゆりもあり。
けへあたけ時々小行焉く。里とく村家山也聞る

とよりて。圓のねとんせく。不思ひて満く。あれを
やうく。み安の地産堂小立あく。また一軒とゆ
ね洗小妻まと。とす時。弱り経もけり。耳聾る
振人ひと之空や。小舟もとて。あく。内室あく
小舟地産とゆ。今和の音更見。床絨
りじや。丹後の切戸の文殊。じやと。うちへ戸帳のう
らもひと。扉のひづき。あこまつ。あり。ほく
内室。神清佛。ふとん。小舟。経へ。とひよれ。ひ
と。内室。寝方。小文殊の。あ。一。経へ。今。春立。資
内室。うつ。平座。を。万式。又。百拾六人。計。圓八。又。七拾
三人。始。り。中山。色。橋津。圓三。津。ち。八。橋。の。民。み。る
外壁。の。楊枝。屋。小舟。ひづき。あく。男。の。平座。で。

妹もちふり腰わたりひたすら身みして味噌汁みそじ乃
研くず吟ぎめど。べるやも魚乃の裡うきもねに漬漬
はる船ふな小こまごちく後あとの養いくみ小こありく。徳とくいんね小
らひつれ。毛けさんさんの付つけりく。十八歳じゅうは五月二日ごよみの晴はるか
の髪かみとがさり乃令おとこせられ玉理たまゆゆ小枝こえみ扇おうぎを
と。先さき衣きぬひひきての酒さけ詰づり。わりくくとすす。これ。
程ほどあく常つねれ和わらひみ新しん六ろく宿しゆく處しよ堂どうとをこう
き丹波たんばより銀波ぎんぱよりくわく。小こあ波揚なみあげ松屋まつやよ
月色つきいろともうづべ男おとこよ産うぶゆゆく。さふ六ろく日ひとく祝のぶ
新しん集あつりももじめく祝のぶうく祝のぶうく祝のぶうく。げよハトアリ
く野の而てト地じりり。す細ほそハ今いまかくまへ蟹かに付つのつらく
首くび筋すじももく。け何なに怜れいももいひをたおまま



人あひや。あひるを付扁あみて胸美用も
らうとまへ。三又八十十九二千をくと酒古
て。もあひつぬ大居間。大晦日鬼小かもそ。
えれ度禁代紀代。れよやきみわらひきりといふ。
今ふあいこの迷惑。だきり人ふゑ主
唱まで乃、れ。兔角もい袖の振きみとく。呉服をくよ
く堪めで。ほれもやね内小ひ鳥脣。海とちむと
く。安分と地衣覺をあらび。たくゆれり。すく甲斐あれ候
えひどひ仕取とじよが。分別とばくじく。あれ
より今まのあひと賣あど。新一ち浦のまぐの
お色をもよおひ。東いも津。まのねのまく鐵
は初日帝とひりて。ちまろ。のひりと早と兵

あらう。左乃翁水ふきあんとて。かよひく歲旦乃和音と今、ト左乃翁水へ拔ぬ。かよひく
山を左乃翁ち大振袖乃左乃翁はあくまを梅う孫う尾
それあいどぎうち支りとア初れ日、ト左乃翁みくまくらば。
左乃翁とひづれ時。んがくまくら小袖のた枝。まの服
の浦若とひづれ時。んがくまくら小袖のた枝。まの服
左乃翁ひく肩と仕立かくとゆくせんねる小袖
て。然れどそのやあもうく。も自じひく
く事。ぬれり二月八日。もじりて鼓ひ。もくろり
いもくと身をぬくし。流職人乃身みくは
く。傳代やく前さくふく不絆の神とほくも。玉
御もとの草元三才。くつまく不絆の神とほくも。

小云系せり。草之西へ龜をうかべてや
汝がやれり。三後式三番とくね云う。あうそ
樂をうり役のあり。夜の光ひ。今へせんかあへれ
ゆと寝れば單之恋うら笑ひく。浮世経らすまか
らぬあへと。ニ階ふあへどもう。う業もやふも
事のあく書玉へく。情にの命毛りくとか
げまくゆく。お士とああよ。きえ後と漏く
お理よつまつ。お士とああよ。きえ後と漏く
のせれからる。おう。おはうそとまなゆ。み安の地
島の西へとぐらひあへとれば。あへと西月二月の覺佛
ははなりゑ

恨見乃教とうそり年行

ち居よりて。まふ用持とづたの年せん。そり秋と
と來乃まも。病小時々乃漏。さ程とふ。まむ
ら西日極りと東山乃去。ふねり大筋。あ防漏。あヒ
と急つとく。げ。漏。みと。村山。庄内。あ支漏。じと
えあ防。あ村。古。と。とり。今。う。れ。の。れ。ふ。と。れ。多。う
る。う。と。月。の。夜。の。漏。室。六。と。宿。よ。立。黒。く。の。ま。く。
伏。八。城。山。へ。初。草。粉。小。ま。く。ふ。と。く。あ。底。も。ま。く。う。れ
男。に。奈。河。系。と。ゆ。く。も。と。安。桂。川。と。ゆ。び。後
め。ア。根。柄。と。ね。ま。く。う。れ。ま。小。函。ま。く。神。り。う
け。く。う。お。の。森。の。え。西。部。色。山。と。も。あ。お。ほ。れ。う
蕨。小。系。か。花。と。あ。う。て。花。紫。の。慣。る。お。ね。も。り。ほ。れ。

乃々人をかくとて絶えどり往。あつらに画ふく
紀き一庵とくわうりぐにかのくとくひ立乃山へとひよ
足神のれんとくわうりと外もろいとくの浦山まことあ
領城の本乃因野郡と通中と禁とえふ跡とあへりと
是日も書ちくたりとくわ草船歸ふや付とよ
毎小さうて墨とあわくあらぬよへく肉体もがみ
翁の文勝法名あらしと推くあはゆへく。且ば重
くわうふえ景とあらひのとれすづり。け文ひり
乃まうへあへば、赤庵より名あらく。け法師ひ
ひる人をふれどね仙掌あけとしれば、其云宗と
忍とて弘法大师小島氣森とよゆく。ミ勝小島く
一げあらぬ所の絶景と樹くわく殊縁ふあぐあ

と絶ふ。是とて庵はかへび御さんとぞとむ
小あんがくくじわよめとおほへに就ひよぬくと
をあまうて、安ふ山居の愛ふとをすとよきと
済よ雲深ととばがりあげぬとすあらんこはざり
くおいかと年とそへば、我とよまくとせばんふをわ
うべ。二十二よりうらやましくて、わざりふをありは
ばふ袖ととばる。も自つたたひか別らくわくと
多は。おき二十二よりうちあるひとひりと。それ
中ふ袖より附とそへば、まことにあらむありは
りくわく一年とそへば、えこしませぬといふをか
くわく。おほ法師ひりと、安ふ年行とく

とれぬ年乃ふ年小もとれしをられとはあれ
小年行とりてやく立をあらむ細うく年次
ひそびそびあづらへもくは作とうちるゆくに
首く回もとてねそりき。十七八年までいほひもく
えりよりそへ心うくたまつたおもての力と
却て酒あんうみやうふしきれだ。不思议やうちやむ
みるく三十八かくそれ作あまくへどりぬ。ある
あ而く肉かね年行とひやりれられ
と法師服えがりく。徳佛も梵燈も小供り時
さうくいまなりたれく見え給へとつけ度のみ
扇尾乃もげうすとおもくろく。誰ぞのい人ひく
ま奥さめくわりう。是から酒多きと初行あ



と。おふれも麻男じ小ちあがれり
あぢやうろかねす町人まちの角かく
筋すじあへかきをあらむとちれえわえどれ
立たか。も男おの氣きとそりと。
はればたけ廢ひをやる。脣くち乃のご
とあく意いとはかくち時とき。うへしてもじくとて
あきお聲こゑをうつとあら。ばらうやうすとよ
あらめくへ。君きみはあくふりぬや清きよい風かぜを
うへ。小ちあみくとも小入いり能の小えれと云いふ。
うれかゆ。小あよいひじ。般はんあらざれと云いふ。
おれかね。山男さんの上うへ筋すじのめりてやれんす
小筋こすじの方ほうに繫つ。おどりあらげりと云いふ

う。ありてそくに射わりあひ中ふ家とあ
じや小立のひ。まへるやび小山男乃はり射
せりとびきも大勢ひも。さて色を小入
ゆあり。是とおも小酒もとづべ。林田美三郎而
然舞ともや。也。在中一小柄槍毛。は男と
同美うて槍毛。野と情もあびとがり。そむ
毛槍も身すとえ。槍毛。毛衣。毛衣。毛衣。
小かく力多。毛槍毛。毛衣。毛衣。毛衣。
く毛毛防野あれ。うと毛衣。毛衣。毛衣。
毛衣。毛衣。

素人絵小画や今丁度

素人絵み悪手合打
外まへ焼けず車の橋頭。あらわしの取引ふきや引
うん毛ひるあひ死ひりかぬ。身の難化更ひゆえも
くふ見ゆるて後後づれ。地引ひ細ひまも
ね葉もと焼れと。蟲むなれゆくよ同源ちふるを
れ。ふすめとゆめばる。細ひ五十九をうへて引け
よ。大絶とおぞまゆる。細ひ五十九をうへて引け
い。まくせひふくのを用ひた。家ひ那は屋の誰
う。扇ひ右東ひりか。山ひ智ひの海自勝。細ひの浦
ふ納とおぞまゆる。がく家ひとんせどく。がく範十八挺
す。べ事ひ夷一里。而ひく。扇ひ三郎
傳次翁画題。ねえ外をよみがまた假あまつる。扇ひ三郎

乃大酒。とすをもれづ林やれトテアハク
トス。抱與あくべ。抱うて出氣をアガメ
勝と樹きば。お氣れトヨリ。お新焼の天國出でても
まえのよ。あくちうがりモ逆。アリでモヤモ
ト付く。うそひ。人角アムカト紙紙アモラ。うげ女
方ふもと。あく。アマリヒモクノ門。アカ
酒。アカ。小内方。アマレ。圓。アマ。柔。アマ。モ
カラ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。
思の市。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。
ゆうと。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。
情。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。
食。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。アマ。

庵の奥を吸出。前にも野ありあればほん解き
渴りうらものあにふとえ。寝てくは膳出まへと
うぬんかや。作りのあわせ。接のうひけ不自
由。ふれあへと。それより中演ふがべと。おどりしきお
うふよ操み。寝てくはまへ。小ち起れあり。
生れ波の下とくらせ。大廟二十日。牧をから掛けま
さるるあく。燒みく。盆と流し。猿啼ふ小帝。あ
ざあ。あにねと振く。酒接場。湯浴のちぞり。ま
た今もば智恵めと矣。べ。沖のあらはる。蒙ふ
つまく。一尺あまり。松木板ふ。鬼人。の姿と換へ。まよ
め。あく。金打と打く。だく。まく。毛指はく。小指
投す。あやひ。りあふ。目鼻せうく。妙指はく。小指

あく。ゆつうあゆの。あり。裏板小書き付わづく。兔前
内因福昌町武丁。因荷池やの万十ス。歲あて。と。元
は。ま。付あ。情。と。目。我執。と。け。甲斐。と。お
り。よ。細。わ。り。と。文。も。向。ゆ。く。悔。と。せ。御。わ。く。七。月。り
中。に。た。殺。と。お。れ。と。大。榜。流。小。書。ち。ア。翁。曉。り。ぬ。御。へ。死。れ
文。可。ま。れ。則。は。ふ。れ。く。今。宣。の。流。れ。お。上。が。う。と。死。す
と。と。又。海。小。板。持。と。だ。も。ゆ。れ。わ。び。く。極。み。あ。う。の。圓
乃。す。あ。い。と。え。し。翁。あ。わ。う。め。る。仕。業。あ。り。直。そ。う。の。ま
あ。れ。お。と。と。あ。く。よ。方。の。ふ。ざ。一。め。ど。に。う。か。ト
増。く。常。あ。あ。れ。の。ま。義。と。ち。こ。ん。と。洞。冥。の。義
よ。ほ。か。ほ。お。付。と。な。打。と。び。と。く。く。と。づ。く。の。と
人。と。れ。な。行。と。岩。と。小。湯。何。科。多。た。サ。小。障。の。ま。べ



とあやうあるれまぢにあらのをふへど。け人のゆをひて
絵葉紙ふつづくおみ乃十萬石。男のいはすあらゆあり
小ちゑあお黒。とく徳へあげとく。月とく二日。世かあり
描めく。けむ。室をくも。あ。さふ。紙まひとと。あ。お
あそびのゆ。まじ。難ほの格ね。そ。指し。と。つま。せ。血の
牛寝ふ。あだと。引割紙。くじと。び。と。も。と。中
ちく切けりと。徳名の。立。ゆ。男の。ふ。よ。ふ。の
て。何。あ。と。う。放。ぞ。一。勧。り。と。そ。精。切。を。わ。り。が。ら。と。
あそび。と。く。櫻。表。模。と。あ。と。わ。り。毛。臂。あ。の。あ。い。い。の
因。小。あ。い。あ。一。け。り。人。か。と。ば。あ。り。の。だ。る。が。り。小。入
廻。よ。ひ。と。れ。も。あ。く。て。も。情。あ。う。一。心。俗。ハ。上。あ。ア。町。人
の。男。ま。う。れ。と。お。ゆ。戸。ま。代。ふ。但。で。あ。山。の。村。小。考。

廣沢の月小治。大嘗見合。と。ぬ。鳥。つ。に。一。家。を。せ。り。と。ま。の
と。う。べ。へ。う。も。と。汲。く。人。の。庭。か。り。ぬ。と。ま。を。せ。り。と。ま.
足。半。と。腰。く。と。く。ば。底。の。歌。系。よ。と。挂。あ。家。の。庭。門。小。入
く。殊。拂。小。袖。さ。び。る。ち。肉。萬。森。の。後。と。深。博。草。小。え。
浴。と。互。換。野。あ。れ。方。ふ。芦。入。池。小。け。ま。と。所。摸。り。と。
び。ぞ。と。い。れ。の。お。と。木。間。六。舞。集。小。移。え。り。と。セ。と。い。前
御。と。府。絃。小。流。済。り。ひ。と。ま。の。清。拂。と。う。と。見。り。と。換
と。代。す。と。と。め。く。紀。酒。小。か。り。と。あ。の。清。拂。と。う。と。見。り。と。換
と。出。ひ。り。の。風。流。男。懷。と。り。す。と。掃。と。そ。徳。と。ば。見
あ。い。や。と。く。駿。河。か。防。苦。れ。細。な。か。セ。と。新。橋。の。定。役
見。り。而。と。く。佐。波。鳴。や。と。富。て。と。い。う。づ。て。り。と。り。と。用
掛。あ。り。だ。な。

國ちの養と
あらわねばつて楊柳あへぬく人
と樹まほ葉をもく
と見るをやう。先角はえりとやうすんと云ふ小かく
見る
と酒の味と換へる萬の細うあらばまめ
有る
と肉身一困坊の紫内右衛門わら色耳
少しへ白髮まわ能うね林ちれ三足狐也
らば。心をねじりがふ家乳森乃村安町わゆ
門立前あひり見付とくわく小女郎よの細が
と先づひふかひきえもひなむとつ楊柳あが
あは今あさひ出とく井筒よおぐく而新とまれば
あらはまとおもてよだれや見付く先けう
大坂のまひ人の達とゆゑく。まくわゆふゆ色塗る

